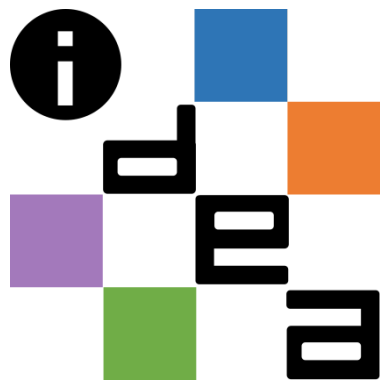


NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。
ニュースレター アイデア



2018

1月号

つながり×ひろがる

いちのせき市民活動センター



- | | | |
|---|---------|---------------------|
| 2 | 二言三言 | 大原に開設した手作りの放課後児童クラブ |
| 4 | 団体紹介 | げいび追分伝承会 (東山) |
| 5 | 地域紹介 | 花泉 老松・四日市場集落会 (花泉) |
| 6 | 企業紹介 | 株式会社 長島製作所 (一関) |
| 7 | センターの〇〇 | センターの自由研究 大根の年越し |

大原に開設した手作りの放課後児童クラブ

対談者 子育てクラブこっころぼ

主将 岩渕福美さん、副主将 佐藤友紀さん、庶務会計 岩渕城光さん

聞き手 いちのせき市民活動センター センター長 小野寺浩樹

「子育てクラブこっころぼ」(以下「こっころぼ」)は、平成29年6月4日に発足した子どもの健全育成の活動を行うための任意団体です。こっころぼの活動の一つとして、冬休み等の長期休業時に、保護者が仕事等により昼間不在となる家庭の小学生を預かるための、手作りの放課後児童クラブの運営を行っています。

手作りの放課後児童クラブ

【小野寺】こっころぼさんが発足してから約半年が経ち少しずつ活動に慣れてきた頃かと思いますが、まずは活動を始めた背景から教えてください。



子育てクラブこっころぼ
主将 岩渕福美さん

【福美】地域には小学生の子どもをもちながら夫婦共稼ぎだったり、おじいちゃん・おばあちゃんも現役で外に働きに出て、昼間大人が家にいないという家庭もあります。会の役員をしている佐藤友紀さん宅でもそのような状況で、保育園に預けていた時は安心でしたが、小学校にあがった時に預け先や見てくれる人がいなくてすごく困っているという話を聞きました。そんな“小1の壁”に悩んでいる家庭が他にもあるのではと思い、今の活動に至りました。

【小野寺】大原には放課後児童クラブがないんですね。

【福美】大東地域には大東小学校(摺沢)の放課後児童クラブ1か所しかなく、距離の問題で入りたくても入れない子もいるようですね。

【小野寺】距離の問題は大きいですね。やはり地域

特有の課題があって「それなら自分たちで立ち上げていかなければ!」という想いがあったんですね。

【福美】ええ。でも最初は本当に手探りの状態で、制度や法的規制もよくわからずほとんど主人(城光さん)に進めてもらいました。その辺がお母さん達の弱いところなんですよ。私は仕事・家事・育児をしつつの活動でしたので段取りが大変でしたし、初めてのことばかりでそれをまとめる力もなく苦労しました。

活動拠点はNPO法人いわい地域支援センターの理事長が事務所として借りている空き家を使わせてもらっていますし、活動の中で地域のボランティアさんの協力を得たり、色々な方とのつながりが増え、皆に助けられながら進めてきた半年間でした。



子育てクラブこっころぼ
副主将 佐藤友紀さん

【佐藤】私は福美さんの考えに賛同し今まで協力させてもらっていますが、子どもをここに預けて見てもらって本当に助かっているし感謝しています。

【小野寺】佐藤さんのように、周りで賛同してくれる方が多かったんでしょうか。

【城光】一気には増えませんでした。じわりじわりと増えてますね。声をかけてみたら意外と「うちは大丈夫です」「何とかかなりそうです」という方もいて。結果的に少人数のスタートになりましたが、今回の冬休みを前に会員さんも増えたんです。

【小野寺】今まで大原になかったものを創り出すというところで、「うちは何とかかなりそうです」という言葉の裏には「大丈夫なの?」という不安があったかもしれませぬ。活動を始めて半年、本当は利用したい

と思っている人はずっと様子を気にしていたと思いますよ。ニーズはあるんでしょうけど、最初はやる人も利用する人も不安ですよ。

隣近所からは、何か反応はありましたか？

【城光】夏休み前に近所にだけご挨拶回りをしたんですが、反対の声はなく、むしろ「子どもの声が聞こえるようになるなら」と歓迎してもらえてすごくほっとしました。夏休みが終わってからも苦情のような話もなく、きっと地域の人に温かく見守ってもらえたんだろうなと。

【小野寺】ご近所の人たちの理解がないとしんどいところがありますからね。それは良かったですね。

僕が個人的に好感をもてたのは、最初から法人の力を利用せず、まずは見よう見まねでも自分たちの力でやってみたというところです。初めから立派な建物や設備があっても運営のノウハウがないと使いきれないと思いますし、自分達で考えることで力や知恵が身につくと思うんです。皆さんで考えた子育てのサービスやメニューの中には「こんな体験をさせたい」とかそれぞれの想いが組み込まれているでしょうから、そんな手作り感たっぷりなところも好きですね。

【城光】どうもありがとうございます。



活動拠点「こっこのうち」の様子

「やりたい」を「できた」にする仕組みづくり

【城光】妻が話していた「制度や法的規制がよくわからずほとんど主人が進めた」ということについてですが、お母さん方は仕事・家事・育児に追われながらも、「何か楽しいことをやってみたい」という気持ちがあるようなんです。学童の問題にしても、困っているけどどうしたらよいかわからずモヤモヤしたまま過ごしているのを感じていました。お母さん方は、制度とかどんな手続きを踏めばよいかとか、そういう不安が強くて進めないでいるんだと思ったのでそこをお手伝いし、こっちで骨組みを作ってあげて、後の実際の運営はお母さん方に任せました。できる環境を作ってあげればあとは喜んでやるんじゃないかと。お母さん方の「やってみたい」という想いを、実際に「でき

た」となるような仕組みがつくれればいいなって。

【小野寺】ここにお母さん達に来て「こんなことに困っているの」「こんなことができないかな」という話ができる、いわゆる“駆け込み寺”のような場所になればさらに幅が広がりますよね。今の運営メンバーだけでは思いつかないようなアイデアや視点とかが出てきて、変わっていくと思いますね。

【城光】そうですね。それに運営委員は皆一般のお母さん方なので、もし専門的な話を受けたらその専門の方に対応してもらえるよう、サポーターになってもらえればなという考えももってます。そのようにしてお母さん方のやりたいことを可能にしていき、どんどんやりたいことをやってもらえればいいのかなと。

ニーズに合わせてかたちを変える

【小野寺】こっころは、将来的にどう考えていますか？

【福美】私個人の考えでは、この先もずっと私たちがここを運営し続けるのではなく、自分達の子どもがある程度成長して今のような子育てが必要なくなったら、次はその時にここを必要とする次の世代のお母さん方に運営をバトンタッチし、自分たちはサポートする側にまわりたいと思っています。一言で「子育て」といっても、小学校・中学校・高校など、子どもの成長や段階によって子育ての仕方は違いますし、ニーズも支援の仕方も変わります。そういうのは、やはり現役世代じゃないと視点がずれてしまうのではと思ひまして。

【城光】その時その時でニーズは変わりますし、僕はここの運営もその時の判断でしかないと思っています。毎年会員が増え、若い世代が続けばその人達が必要とする限り続けばいいし、続かなければニーズがなくなった時点で終わりだと思いますけどね。

【小野寺】そういう考え方が最近の方に芽生えているのはすごく良いことだと思います。ひと昔前は特に、団体を解散するという強い抵抗があり、団体の存続ばかり気にしてしまうことも多かったように思いますが、そうではなく、自分や周りのニーズに合わせて物事を考え、必要に応じて「活動は期間限定ですよ」とか「目標を達成したら解散しますよ」とか、そうやって割り切った考えができてきているのは、やはり時代なんだと思います。将来計画は大切ですが、時代や状況に合わせてその都度その都度判断し、動いていくのも必要なことですよね。

子育てクラブこっころ

住所：〒029-0711

一関市大東町大原字西山81番地 7

電話：090-4886-1453(岩淵福美さん)

団体 紹介



会長 伊藤孝雄さん

～基本情報～

- ◆会 長：伊藤 孝雄 さん
- ◆連絡先（住所・電話とも庶務菅原勇さん宛）
住 所：〒029-0302
一関市東山町長坂字柴宿 7-56
電 話：0191-47-3661
- ◆活動日：毎月第 2 金曜日・19 時～21 時
（場所：東山地域交流センター）

げいび追分の唄と歴史を後世に

げいび追分の歴史と傳承会設立

「♪清き流れの砂鉄の川に～」猯鼻溪船下りを体験したことのある方なら一度は耳にしたことのある舟歌「げいび追分」。今回はげいび追分の唄と歴史を後世に伝え、町の活性化を目指す「げいび追分傳承会（以下傳承会）」の伊藤会長にお話を伺いました。

げいび追分の歴史は古く大正 14 年に遡ります。当時猯鼻溪は国の名勝指定を受け、初代日本百景の認定、大船渡線の開通なども重なり、観光客は増加の一途に。そこで観光客の心に残る土産にと、北海道で江差追分の大御所に師事し帰郷していた鈴木朗月さんが作曲、弟の鈴木秀月さんが作詞を手掛け、完成させたのが「正調げいび追分」でした。

その後昭和 4 年の閑院宮殿下猯鼻溪ご来遊の際、鈴木兄弟らとともに御前演奏に参加した唄い手の 1 人赤羽忠良さんは、昭和 55 年に「正調げいび追分」をレコード化。「鈴木朗月先生に指導されたげいび追分保存の一助に」との思いを込めました。赤羽さんと面識があった伊藤さんは詩吟九段の持ち主ですが、施設を詩吟の慰問で訪れた際、入所していた赤羽さんと偶然再会します。伊藤さんはその折、赤羽さんから「げいび追分の傳承会の結成を」と託されたと言います。

また、昭和 26 年に NHK のど自慢で優勝した佐々木忠市さんは、朗月さんにげいび追分を習い、猯鼻溪の船頭として 50 年余り追分を披露したという方で、門弟が一時 300 人を数えたという民謡教室（民謡佐々木会）を自ら開く傍ら、げいび追分の傳承を考えていたそうです。そんな佐々木さんから傳承会結成を呼び掛けられた伊藤さんは、赤羽さんから託された想いも鑑み「一緒にやりましょう」と決断。かくして平成 10 年に発起人兼師匠を佐々木さん、会長伊藤さん、会員 20 名という体制で「げいび追分傳承会」は船出したのです。

楽しく健康的に

毎月 1 回の定例会ではげいび追分はもちろん、それ以外の民謡も練習し、その成果を『いわい地方民謡民舞踊の集い』をはじめ、各種芸能大会や東山地域の文化祭、施設の慰問などで披露しています。中でも夜の唐梅館山頂で長坂の町並みと満月を楽しむ『中秋の名月を愛でる会』でのげいび追分の旋律は、船上とはまた違った余韻を感じさせてくれます。

現在 40 代から 90 代！の方まで在籍しているという傳承会。定例会では練習の合間にお茶の時間も設け懇親を図るほか、毎年移動教室と称して 1 泊の懇親旅行も実施しています。腹の底から声を出す民謡は健康的で、「親睦と健康がモットー」と伊藤さんは語ります。

繋げていくバトン

20 人でスタートした会員は、最盛期に 45 人位まで増えたものの高齢化や物故者などもあり現在は 25 人に。発起人兼師匠の佐々木さんも数年前に急逝。現在は佐々木国男さんが師範として指導にあたっています。設立以来会長を務めている伊藤さんは、自身の高齢化（89 歳）による後継委譲を課題とする一方、げいび追分に踊りを付けたり名入れの半纏を製作するなど新しい取り組みも行っています。まもなく結成 20 年の節目を迎える傳承会の地道な活動は、時の流れとともに様々な変遷を経ながら継続されてきたのです。それでも「唯一変わらないもの」があるとすれば、鈴木兄弟に端を発し、赤羽さん、佐々木さん、伊藤さん、そして歴代の会員や猯鼻溪の船頭ら、多くの関係者によって唄い、語り継いできた「げいび追分」というバトンを、これからも傳承会が繋いでいくことにほかなりません。



移動教室の集合写真

地域紹介



はりかえ
左：集落会長 張替義春さん
右：集落公民館長 千葉敏昭さん

～基本情報～

四日市場集落は29世帯約100名の小さな集落です。行政区は蛭沢集落と併せて老松第1行政区。昭和12年には集落内の共同作業場として現在の集落公民館を建てており、集落活動の歴史は古いようです。

小さなことにも大きな工夫 ～自然に笑顔がこぼれるしかけづくり～

勝手に名物化！ 主体的に動けるしくみ

『じゅっと煮汁が染みて、こっくりと甘く煮ふくめられた油揚げ、硬めに炊かれた地元・張替さんちの極上ササニシキで仕上がったすし飯、もう、たまりません。さあ「恋する稲荷寿司」の時間です。』

そんな素敵な文面が書かれているのは四日市場集落名物の「金剛山稲荷」。集落内にある金剛山様神社で観桜会も兼ねて開催している春季例大祭においてふるまわれるお稲荷さんです。1年で最も集落のみなさんが集まるお祭りなので、子どもから女性、お年寄りもみんなが食べられるものを出そうと8年前に誕生。冒頭の名文句はお稲荷さんのパックにパッケージとして添えられています。これらの文言は毎年変わり、今年はなんと「日本で2番目に売れている」という文言まで！

「こういうことをさ、勝手にやってくれる人がいるんだよ。面白いよなあ」と、誇らしげに笑うのは「集落会長」の張替さん。四日市場集落は古くからの小さな集落で、花泉に集落公民館制度ができあがる以前から「集落会」として活動していたため、「集落公民館長」はあくまでも集落内の役職の1つ。集落公民館長の千葉さんは集落公民館そのものの維持管理や、市民センター関連の会議等に出席。それらが報告され、集落そのものをまとめるのは「集落会長」の張替さん。

四日市場集落では「農林連絡員」や「交通安全委員」等、各種団体の役職も集落会の役割分担として位置付け、集落会内には役職がズラリと22も。各戸から1人は何かしらの役員が出ているような状態ですが、一度集落会に役割を集約してから分担するので、1人の人が何役も背負うような状態を回避することができます。

豆腐とビールで献杯

小さな集落ならではの工夫やアイデアがたくさんつまっている四日市場集落。50年ほど前からは、お盆の際には「盆会」として、初盆の供養を集落公民館で

行っているとのこと。御位牌を集落公民館に持ち寄り、「豆腐1丁」が各自にふるまわれ、みんなで食べながら初盆の供養を行うというのです。それぞれの負担軽減のために生み出されたという四日市場集落独自の習わし。その他、年祝い・厄払いを兼ねた新年会や地区民運動会後の焼肉ビアガーデンの開催、金剛山様神社秋季例大祭等、行事数は多いものの、負担感は少なく、楽しみながら行っている様子を伺うことができました。

飲みニケーションで一致団結

『『やー』『おー』と集まれる関係性を続けていきたい』という会長さんの言葉通り、今回の取材に際しても会長さんの他に3人の役員の方が集まってくれました。このメンバーは長男会のメンバーでもあり、毎月の飲みニケーションを40年以上続けています。

驚くべきは集落内の女性陣もお食事会を行っていること！毎月第4土曜の夜は女性陣が集落公民館を借り、仕出し弁当をとってのお食事会を続けているそうです。

また、取材の中では「今はなくなった‘演芸会’をまた集落でやりたいなあ」など、前向きな話題がたくさん飛び交いました。観桜会の会場となる金剛山様神社も、一時は荒れていましたが、別当さんが帰郷した

ことを機に集落民の手で整備し、桜を植えた場所。ささいなきっかけを逃さず、集落一丸となって取り組み、課題を楽しみに変換する四日市場集落のみなさん。来年のお稲荷さんのパッケージが今から楽しみです。



観桜会の様子とお稲荷さんのパッケージ

企業紹介



代表取締役社長
新宮 由紀子 さん

～基本情報～

- ◆代表取締役社長：新宮 由紀子 さんしんぐう
- ◆住所：〒021-0822 一関市東台 14-34
- ◆電話：0191-23-3850
- ◆FAX：0191-23-3851

子育てをしながら、生き生き・わくわく仕事ができる環境を

創業時の地名と昭和の名選手に由来が！？

一関市近郊に3工場を構える金属加工メーカーの株式会社長島製作所は、部品メーカーに勤務していた新宮紀一郎氏が独立し、昭和51年に家電製品の金型製作とプレス加工所として創業しました。今回は娘で2代目社長である新宮由紀子さんにお話を伺いました。

創業当時は平泉町長島に工場を置いていたこともあり、社名はその時の地名に由来しているようで、当時プロ野球で大活躍していた巨人の長嶋さんの名にもあやかっただとか。

平成に入り家電生産が海外に移行し始め、電気機械産業の勢いは減退、一時は経営が傾きつつあったそうですが、現在は、本社工場を一関東台に置き、家電部品の他、半導体関連部品のプレス加工や精密板金加工を行い、前沢工場（奥州市）では各種自動車部品の量産、藤沢工場（一関市藤沢町）では金型設計・製作の他、各種研究開発などの生産技術全般を担っています。

突然の転機

新宮さんは、大学卒業後、東京のアパレル業界に就職しバイヤーとして活躍していましたが、体調を崩した母の介護のためリターン。そこへ父である前社長から「自動車部品製造の部門を立ち上げるから手伝ってもらえないか」と要請されたことがきっかけで“モノづくり”の世界へ。同社の自動車部品製造の下請会社「コープライズ」を最低賃金のパート5名でスタートさせた新宮さんは、大赤字と、従業員との危機意識共有による生産性と品質の向上という両方を体験しながら現場でモノづくりと経営の経験を積みました。平成17年コープライズは、長島製作所の自動車部品製造専門の前沢工場新設を機に合併。新宮さんは前沢工場製造部長に就任し、現在長島製作所の売上の6割を占めるといふ自動車部品事業の礎を築いたのです。

仕事と子育ての両立を手厚く支援

長島製作所は約150人の社員のうち3分の1が女性。子育てをしながら役職をもつ女性社員も多くいます。平成26年に認証された「いわて子育てにやさしい企業※」について、「絵にかいた餅にしたくない」と新宮さん。「そのためにも社員一人ひとりが声をあげられる環境が必要だ」と続けます。

新宮さんは、“男性の仕事”と見られがちな、“モノづくり”に携わるうちに「女性って製造業に向いてるな」と感じるが多々あったといいます。「同じ製品を一日数千個単位で製造しているわけですからね。作業スピードと正確さが命です。根気強く同じ作業を一定の効率を保って繰り返す資質は女性の方が優れていると思いますね」と語ります。

しかし、女性は結婚・出産・介護などで家庭との両立を図るため部署の異動や、働き慣れた職場を退職せざるを得ない状況が現実的に起こりがち。新宮さんは自身の経験を踏まえ、社内に“子育て支援推進委員”を設け、環境改善を推進してきました。「社員の意見を取り入れながら妊娠から育児期間中の制度一覧を委員が作成し、誰もが理解できるように掲示。男女問わずお互いが情報を共有できることが大事だと思った」と語り、実際に未就学児の子どもがいる社員には希望に応じて短時間勤務などを行うことができる制度を取り入れ、企業として子育てをサポートしています。

今後は女性社員への支援を手厚くする一方、男性社員の育児休業取得推進も考えており、「現状に合った取り組みを社員の声を聞きながら進めていきたい」と力強く語っていただきました。

※育児・介護休業法の規定を上回る休業制度や短時間勤務制度、年次有給休暇取得などを促進する企業を認めるもので市内では同社を含めて5社が認証



本社工場の外観

センターの 〇〇!



大根の年越しのお供え物
(写真提供:千厩町奥玉地区 村上達男さん)

春に各地域協働体へ行った地域特有の行事などに関するアンケートの回答に「大根の年越し」というユニークな名前の年中行事がありました。一体どんな行事なのか、どんなルーツがあるのか、調査してみました!

各地域からご提供いただいた文献によると、呼び方ややり方は様々でしたが、概ね右のような内容でした。

昔は岩手県内各地で行われていたようですが、実際に市内各地域でお話を聞いてみたところ、『大根の年越し』という言葉自体知らないという人が多く、「知っている」と答えた人もほとんどが「昔はやってたが、今はやっていない」、「名前は聞いたことがあるが中身は知らない」との回答で、現在では認知度が低いようでした。

そこで、今回は文献を参考に、行事の由来とされる民話を漫画にしてみました。

「大根(大黒さま)の年越し」

(「大根(大黒さま)の嫁迎え」ともいう)

時期: 12月10日または12月9日、12月20日

内容: 葉のついた“まっか大根(二股の大根)”と普通の大根、煎り豆、財布などを膳に乗せ、大黒さまにお供えし、煎り豆と財布(または小銭)を入れた五升枡をゆすりながら「豆の数だけ俵をもうけるよう、金をもうけるよう」などと三度唱え、商売繁盛や豊作などを祈願する。



むかしばなし 大根の年越し

※諸説あります

※お餅を食べるときに大根おろしと一緒に食べるのは、この民話がルーツという説もあるそうです。

参考文献: 一関市老松公民館『おらほのしきたり2 岩手県一関市花泉町老松の年中行事』、12区自治会(千厩町清田)『12区屋号マップ おらほの方言』藤沢町・藤沢町食生活改善推進員連絡協議会『藤沢のまちにつたわる行事食』、岩手県立博物館『岩手民間信仰事典』

おしらせ

一関

達古袋料理教室 第4回 紅茶教室(ミルクティー)

NPO法人一関のなかなか遺産を考える会では、校舎の横幅が119mもある旧達古袋小学校の校舎を活用し、料理教室を行います。今回は紅茶研究家の磯淵猛さんを講師にミルクティーの正しい入れ方を学びます。※1月10日(水)までに下記問い合わせ先まで申し込みください。先着20名です。

【日時】平成30年1月13日(土)13時30分～15時30分
【場所】旧達古袋小学校(一関市萩荘八幡154-3)
【参加料】一人1,000円(小・中・高校生は無料)
【問合せ】0191-29-2511((株)あべ建築開発)

一関

一関市体育協会設立10周年記念講演会 宇津木妙子 講演会

ソフトボール選手として世界選手権に出場、引退後は日本代表監督に就任しオリンピックのメダル獲得に尽力してきた宇津木妙子さんと、スポーツ庁競技スポーツ課の小澤陽さんによる講演会を開催します。※下記問い合わせ先まで申し込みください。先着400名です。

【日時】平成30年1月21日(日)13時45分開場
【場所】ペリーノホテル一関
【参加料】無料
【問合せ】0191-31-3111(一関市総合体育館)

花泉

佐々木慶将講演会

花泉町老松出身のフェンシング選手佐々木慶将さんの講演会「あの日があったから今の自分がある～次の世代に伝えたい思い～」を行います。フェンシングのデモンストレーション、小・中学生の体験(※要申込/先着10名)も行います。

【日時】平成30年1月21日(日)
開場 9時30分 開演 10時
【場所】花泉総合福祉センター
【料金】入場無料(※但し入場整理券が必要です)
【問合せ】0191-82-5153(老松みどりの郷協議会)

一関

岩手・一関 第11回全国わんこもち大会

一関のもち文化をユニークに発信する「全国わんこもち大会」。5分間で食べたもちの数を競います。味はあんこ・ずんだ・しょうゆの3種類。団体戦(2人1組)と男女個人戦があります。※先着順で1月31日(水)までエントリーを受け付けています。

【日時】平成30年2月4日(日) 開会10時45分
【場所】なのはなプラザ3階
【参加料】団体戦 2,000円(2人1組)
男性・女性個人戦 1,000円
【問合せ】0191-26-6400(いちのせき市民活動センター)

一関

第2回シニア・フェスタ

シニア活動プラザで活動する団体が一堂に会し、舞台発表やパネル展示などを通して日頃の活動紹介を行います。竹トンボ作り、和菓子職人の技、民俗芸能の伝承(予定)など、シニアの皆さんの知識や経験を活かした発表が盛り沢山!年齢問わずどなたでもご来場お待ちしております。

【日時】平成30年2月4日(日)10時～15時
【場所】なのはなプラザ2階
【料金】入場無料
【問合せ】0191-31-8118(一関市シニア活動プラザ)

東山

恋する大人の運動会

社会人フットサルチームヴィヴァーレーの一関の選手に楽しく教わりながら、男女が出会い交流する婚活イベントです。対象は独身男女各15名(20～30代)で、1月28日(日)が申込締切です。参加には会員登録(登録・年会費無料)が必要です。

【日時】平成30年2月10日(土)
14時～16時30分
【場所】東山総合体育館
【参加料】無料
【問合せ】0191-48-4677(ファンスポルト一関)

川崎

自治会長サミット 第3回

自治会運営に携わるご本人から皆さんに“自治会運営のコツ”をご紹介!今回は「上津谷川自治会(室根)」と「藤沢第8区自治会(藤沢)」に発表いただきます。一関市内の自治会長または準ずる役職員(民区長、集落公民館長等)の方が参加できます。

【日時】平成30年2月21日(水)
13時30分～16時30分
【場所】川崎市民センター
【参加料】無料(※要申込)
【問合せ】0191-26-6400(いちのせき市民活動センター)

一関

春休み親子のコンサート 音楽の絵本

金管五重奏「ズーラシアンプラス」と弦楽四重奏「弦(つる)うさぎ」が、クラシック音楽から映画音楽、童謡を演奏します。動物たちが奏でる多彩な音楽の世界をお楽しみください。※0歳から入場できます。

【日時】平成30年3月24日(土)
開場13時15分 開演14時
【場所】一関文化センター大ホール
【料金】おとな1,000円(当日1,300円)
子ども500円(600円)※3歳～中学生
【問合せ】0191-21-2121(場所と同じ)

全域

新規キャリアサポーター募集

キャリア教育支援として、これまで培ってこられた技能・技術(工学系のみならず広義で)などの仕事の体験や経験を、ボランティアで子どもたち(小・中・高校生)や若者に伝えるキャリアサポーターを募集します。活動できる日時や時間帯に合わせて活動でき、若者との交流や様々な職業の方との情報交換の場にもご活用いただけます。

【問合せ】0191-26-3910
(ジョブカフェ一関)

今月の表紙



千厩町小梨にある県指定有形文化財「村上家住宅」は、江戸時代に建てられた築300年以上のかやぶき民家ですが、その玄関横には高さ約2mの場所に鶏小屋があります。時計がない時代は鶏の一番鳴きが夜明けの合図でしたが、小屋に朝日が当たると建物の東側・高い場所に小屋を造り、それで時刻を知っていたそうです。

Q&A

あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

Q 「SWOT分析(スワット分析)」とは何ですか?

A SWOT分析とは事業などの現状分析をするための手法で、事業などを取り巻く環境や影響、それに対する現状を分析し、そこから今やるべき行動や戦略を導き出していくことができます。SWOTとは「S:強み、W:弱み、O:機会、T:脅威」の頭文字で、強みと弱みは内的要因、機会と脅威は外的要因で、それぞれを掛け算することで新たな戦略を見いだしていきます。

